



おかざき
岡崎 正淳
誠友会
(45分)



道の駅アリストめまくまは

問

①道の駅制度創設の初期に造られ施設の老朽化や新規事業のための設備投資など新たな課題の解決に向けて取り組む時期にきていると言えるが、現状は。

②令和元年度に国の重点道の駅候補に選定されたが、その後の取り組みは。

③南部地域の中心的な拠点性を備えるため、抜本的な再整備の必要性を感じるが。

答

①利用客数はピーク時の平成23年と比べ約2割減少している。また設置から約30年が経過し、施設の老朽化も進んでいる。
②キャッシュレス決済の導入や外国人観光案内所のパートナー施設の認定を受けるなど次の公募に向けて取り組んできたが、令和2年度以降、国は公募を行っていない。
③観光の拠点としての潜在力などを備えていると考える。大規模な改修も必要になると想定され、その際には南部地域の活性化に資する拠点となるよう、在り方を検討する。



アリストめまくまの自由市場



いけがみ
池上 文夫
市民連合
(70分)



敬老行事の見直しは

問

今年度からの見直しについてさまざまな意見や要望を仄聞するが、補助金や記念品、対象年齢などの考え方は。

答

敬老会実施団体向けのアンケートや敬老行事のあり方懇談会での意見を踏まえ全学区一律の対応ではなく地域の実情に応じた開催を基本とした。今後は、実施状況の確認などを行う中で改めて次年度以降の在り方について検討する。

学校給食の無償化を

問

子育て支援策の最も基本的な課題として早急に判断すべきと考えるが。

答

給食費に係る保護者の経済的負担を増やさないよう約10年間価格を据え置いた。本市で無償化を導入した場合、多額の財源が将来にわたって継続的に必要となることから、現時点では難しいと考える。



おいしい！楽しい！
給食の時間



こやま
小山 友康
市民連合
(70分)



ひきこもり対策は

問

①民生・児童委員に依頼したアンケートの集約結果と課題は。

②相談窓口「ふきのとう」の認知度は、2021年度のアンケートにおいて2割程度にとどまっているということだがそこに寄せられている当事者や家族からの相談件数および主な相談内容は。

答

①ひきこもり状態として把握された317人のうち、10年以上にわたる人が約4割で、40歳代と50歳代で約半数を占め、男性が約7割だった。ひきこもりの長期化で、支える家族の高齢化が進み、親の介護や親亡き後の生活などが課題となっている。
②相談件数は2020年の開設以来延べ1086件で、本人からが455件、家族からが529件、地域・知人からが102件であった。主な相談内容は、ひきこもりの人への接し方、就労に向けた準備、将来への経済的な不安、心身の症状への対応などであった。



本市のひきこもり
相談窓口